

A decorative graphic on the right side of the page. It features three circles of varying sizes and colors: a large yellow circle at the bottom right, a medium green circle in the middle, and a smaller green circle at the top. Thin lines in green and yellow connect these circles, extending towards the top left and bottom right corners of the page.

横浜市福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

太陽の子 尻手保育園

平成 27 年 12 月

評価実施機関
特定非営利活動法人
よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	7
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	10
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	11
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	12
評価領域Ⅵ 経営管理.....	13
利用者家族アンケート分析.....	14
利用者本人調査.....	18
事業者コメント.....	21



実施概要

事業所名	太陽の子 尻手保育園	
報告書作成日	平成 27 年 12 月 10 日	(評価に要した期間 5 カ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター	

*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：平成 27 年 8 月 3 日～9 月 30 日】
 - ・職員一人一人が行った自己評価をもとにクラスごとの会議で意見交換をしながら、1 項目ずつ確認を行った。その後、各クラスリーダー、主任、園長で協議・合意し、一つにまとめた。
2. 利用者家族
アンケート調査 【実施期間：平成 27 年 9 月 4 日～9 月 18 日】
 - 配 付：全園児の保護者（80 家族）に対して、園から手渡しした。
 - 回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：平成 27 年 11 月 12 日、11 月 13 日】
 - 第 1 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長）
 - 第 2 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：職員ヒアリング調査
(主任・リーダー保育士 3 名・非常勤保育士 1 名・栄養士 1 名)
事業者面接調査（園長、主任）
4. 利用者本人調査 【実施日：平成 27 年 11 月 12 日、11 月 13 日】
 - ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子等を観察。
 - ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。



評価結果についての講評

【施設の概要】

太陽の子尻手保育園は、JR南武線尻手駅から徒歩3分の住宅街の一角にあり、平成25年（2013年）4月長谷川興産株式会社（現長谷川キッズライフ株式会社）により開設されました。

園舎は2階建てで1階に0歳児、1歳児、2歳児の保育室と調乳室、沐浴室、幼児トイレ、多機能トイレ、事務室兼医務室、調理室があります。2階には3歳児、4歳児、5歳児の保育室、幼児用トイレとホールがあります。ホールでは毎月の誕生会や行事の催し物を異年齢で交わり楽しんでいます。園庭では体を動かして遊び、夏季はプール遊びや泥遊びをしたり、プランターで野菜を育てたりしています。なお、施設は省エネ機の導入と緑化の実施により、横浜市より「よこはまECO保育所認証書」を受けています。

定員は90名です。延長保育、一時保育を実施しており、開園時間は、平日7時30分から20時00分、土曜日は7時30分から18時30分となっています。

保育理念は「“のびのび すくすく にこにこ” 子ども・保護者・保育者 みんなで感動を分かち合い満足できる 笑顔あふれる保育園を目指します」と定め、理念を基に保育目標を「・心身共にたくましく 元気な子ども・友達と仲良く遊び 思いやりのある子ども・感性豊かで 自分で考え行動ができる子ども」としています。また、保育方針を「・安心できる人間関係、整った保育環境の中で自己を十分発揮しながら活動することにより、健全な心身の発達を図ります・様々な経験や人と関わりの中で、温かい人間性と豊かな感性を持った子に育てます・子育て支援や地域の交流を深め、存在感のある保育園になるよう支援の充実に努めます」としています。

1. 高く評価できる点

●子どもたちは保育士に見守られ基本的な生活習慣を身につけています

保育士は発達段階に応じて子どもがしたいことを大切に考え保育しています。

読み聞かせでは子どもたちが読んでほしい本のリクエストに応えたり、園外保育では子どもたちのしたいことに合わせて公園を選んだり、また5歳児は自分たちの望むことの歌詞で替え歌を作り、楽しそうに歌っています。野菜の栽培の苗選びも子どもたちの希望を入れて選ぶ等、日常の保育の中で子どもの主体性が育つ保育を実施するよう心がけています。

保育士は子どもたちが自分でする事を見守り、「もう少し」「上手」「できたね」と声をかけ、子どもがやりとげる喜びを感じる事を大切にしています。子どもたちがトイレに行く時のズボンの着脱や午睡のための着替え等、子どもが自分でする事を見守り、必要なときだけ手伝うようにしています。トイレトトレーニングやお箸の使用等、子どもの発達に合わせて一人一人援助しています。子どもたちは乳児の時から自然に生活の流れを身につけており、4歳児になると手洗いの際、手首までしっかりと洗っている姿が見られるなど、手洗い、着替え、食事などを丁寧に行っています。

このように、一人一人にあった対応で、子どもたちはせかされたりすることなく保育士に見守られて基本的な生活習慣をしっかり身につけ、穏やかに園生活を過ごしています。

4・5歳児は当番活動で給食の配膳や雑巾掛けをしています。雑巾を上手にゆすいで絞っている子どもに「水、冷たい？」と聞くと「冷たいけど大丈夫、4歳だから」と返事がありました。4・5歳児は年長としての自覚を持って行動しています。

●食育を通して子どもたちの食への関心を育てています

食育を積極的に行なっています。保育士と栄養士は毎月の給食会議や職員会議で話し合い、年齢に応じて段階的に食育を進めています。1歳児は1歳の後半から野菜を触ったり、しめじを裂いたり、キャベツをちぎったりして食材と触れています。2歳児は珍しいアスパラや赤ピーマンを触ったり、ごぼう・にんじんを洗ったり、おにぎりを握ったりしてさまざまな食材に興味を持てるようにしています。3歳児、4歳児、5歳児は、それぞれ蒸しパン、かぼちゃ団子、おいなりさんを作ったり、幼児合同でフルーツサンドなどを作ったりとクッキングを実施して楽しんでいます。また、園庭のプランターで野菜を栽培しており、水やりや作物の成長過程を観察し、収穫後は調理されたものを試食する等、さまざまな体験を通じて、自然の恵みの大切さや感謝を学び、食への関心を深めています。家族アンケートにも「家ではできない体験をさせてもらった」という声がありました。

2. 工夫・改善が望まれる点

●保護者の要望・意見を汲み取り、理解を得る取組が望まれます

園では、乳児クラスは連絡ノートを用いて毎日保護者と連絡をとり、乳児クラスは必要な時に連絡ノートで保護者と連携をとっています。また、ブログを頻繁に更新して保育園での様子を伝えています。しかし、今回の家族アンケートで「年間の保育や行事の保護者の要望」「保護者懇談会や個別面談など話し合いの機会」「送迎時の情報交換」の3項目は「どちらかといえば不満」「不満」が27.3%となっていて、自由記述欄には「先生からひと言頂きたい」「先生によってばらつきがある」「園と保護者との距離がちぢめられる環境づくり」など様々な意見が寄せられています。保護者がどのような事を求めているのか、要望などを園として把握し、記録を蓄積・整理して、園全体として検討していくことが望まれます。

●保育所の専門性を活かした地域子育て支援を期待します

保育士や子どもたちは散歩で会った地域の人たちと挨拶を交わし、公園では地域の親子と一緒に遊ぶ姿も見られます。また、子どもたちはお泊り保育の食材や苗を近隣の商店に買いに行く等、地域との交流を行っていますが、地域住民への情報提供や育児相談に応じることは積極的になされていません。一時保育は行なっていますが、園庭開放・交流保育、子育てや保育に関する講習会、研修会などは行われていません。

事業計画には「子育て支援や地域との交流を深める」とあり、保育課程にも「地域交流・地域子育て支援の拠点となるよう出来る限り開放し、ニーズに応えていく」と明記されています。

今後は、保育所の専門性を活かした地域子育て支援へのさらなる取組が期待されます。

●職員のやりがいを引き出すための取組が望まれます

職員は一人一人、年2回の目標設定と自己評価を実施し、意欲も高く外部研修や内部研修に積極的に参加していますが、園として経験・能力や習熟度に応じた役割と期待水準が明確化されていません。職員が見通しを持って自己研鑽に励めるよう、今後は経験や能力に応じた業務や技術の期待水準を定め、職員のやりがいを引き出すことが求められます。



分類別評価結果



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅰ-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	評価結果   
・保育の理念は「のびのび すくすく にこにこ 子ども・保護者・地域・保育者 みんなで感動を分かち合い、満足できる笑顔あふれる保育園を目指します」と定めています。保育方針を「・安心できる人間関係、整った保育環境の中で自己を十分に発揮しながら活動することにより、健全な心身の発達を図ります ・様々な経験や人との関わりの中で、温かい人間性と豊かな感性を持った子に育てます ・子育て支援や地域との交流を深め、存在感のある保育園になるよう支援の充実に努めます」としています。理念を基に保育目標を「・心身共にたくましく 元気な子ども ・友達と仲良く遊び 思いやりのある子ども ・感性豊かで 自分で考え行動ができる子ども」として、利用者本人を尊重したものとなっています。 ・職員に配布される職員研修資料の初めに保育理念と保育目標、保育方針が記載されており、園の玄関に掲示されて保護者や職員が常に目にしています。理念や保育目標、保育方針は「保育課程」に記載され、これに基づいて指導計画を策定するので、職員は理解しています。 ・保育課程は、保育理念、保育方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にしています。今後はさらに、保育目標が具体化され、年齢ごとのねらいと内容が各年齢を通じて一貫性のあるものとなるよう全職員が話し合い、指導計画を立案しやすくする工夫が望まれます。 ・言葉で伝えられない子どもは表情やしぐさから意思を汲み取り、幼児は一人一人の主張を大切に丁寧に聞き取るようにしています。子どもの意見・要望を聞いて指導計画の見直しに活かし、子どもの自主性を育てるよう指導計画は柔軟に対応しています。例えば、食育の栽培では、夏の野菜を調べ、何の野菜を育てたいか子どもたちの希望を聞いて対応しています。	
評価分類Ⅰ-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施	評価結果   
・入園時に保護者が提出する書類に入園前の発育状況、今までかかった病気、子どもの性格、子どもの呼び方、予防接種の状況等を記入してもらい状況を把握しています。保護者から提出された書類や面接時に把握された記録はファイルリングして職員会議で報告し、全職員に伝え、共通理解として保育に活かしています。 ・入園後の短縮保育（ならし保育）は子どもの様子や状況に応じて保育時間を徐々に延ばしていくようにしています。保護者には事前に「慣らし保育について」の資料を配布して個々の状況に合わせて実施しています。 ・0・1・2歳児は、所定の連絡ノートを使用して毎日、子どもの様子について保護者への連絡を行っています。3歳児からは、B6サイズの自由形式のノートを用いて必要な連絡を記入し、保護者からの連絡には返信をしています。 ・月間指導計画や個別指導計画は年齢ごとに、ねらいや援助、配慮とともに、子どもの姿や評価が記入されており、子どもの発達や状況に応じて評価・見直しを行ない、次の計画に反映されるよう作成しています。評価、改訂にあたっては、送迎時に保護者から意見を聞いたり、連絡ノートで意向を聞いたりして指導計画に反映させるよう心がけています。	

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保	評価結果
	
・「衛生管理マニュアル」に清掃の手順が記載されており、チェック表に基づき毎日清掃を行ない、園内外は清潔を保っています。 ・空調設備のほか、各保育室には加湿機能付き空気清浄機が設置され、気になる臭いは感じられません。各保育室の掛け時計に温度、湿度が掲示され、温・湿度はエアコン、加湿器を使用して適切に管理しています。保育室は陽光を十分取り入れられる構造となっています。 ・0歳児保育室に専用の沐浴室があり、いつでも使用できます。沐浴・温水シャワーは使用したとき清掃するだけでなく、毎日スポンジで磨き、次亜塩素酸ナトリウム希釈液で拭いて清潔を保っています。 ・各保育室は食べるものと寝ることを同じ部屋で行っていますが、0・1・2歳児の保育室はコーナーを分けて機能別の空間を確保しています。3・4・5歳児の保育室は食事後、テーブルを片付けてコートを置き、時間帯によって使い分けています。	
評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果
	
・3歳未満児については、一人一人の発達を考慮に入れ、子どもの様子、保育者の援助と配慮などを記入し、毎月個別指導計画を作成しています。3歳以上の幼児についても、特別な課題がある子どもの場合には、個別指導計画を作成しています。個別の目標・計画はクラス担任で常に話し合いを行い、職員会議でも一人一人の子どもについて話し合い、子どもの発達状況に合わせて柔軟に対応しています。 ・子どもや家庭の個別の状況・要望は、児童票、児童健康台帳、個別指導経過等、定められた書式に記録しています。子どもの記録内容は事務室の鍵のかかるロッカーに保管し、必要なときは園長の許可を得て職員は見るすることができます。 ・重要な申し送り事項は記録されており、翌年度の担当が決まった時点で職員同士で引継ぎの話し合いが行われ、伝達が実施されています。 ・個別指導計画の作成・見直しにおいて、保護者の意向は聞いていますが、同意を得るまでには至っていません。	
評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果
	
・入園のご案内に「発達支援児保育について」の項目を設けるなど、特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があります。特に配慮を要する子どもの保育などに関する外部研修に参加した職員は、職員会議で報告し、研修報告書を回覧して共有するとともに保育に活かすようにしています。 ・園舎は2階建てですが、エレベーターが設置されており、玄関から床がフラットで段差無く、バリアフリーの構造になっています。車椅子対応の多機能トイレも備えています。保護者と話し合い、同意を得て、横浜市東部地域療育センターから巡回相談で助言を受け、情報を得られる体制をとって、担任が障害の特性を考慮した個別指導計画を立てています。 ・アレルギー疾患のある子どもへの対応は、医師の指示書と保護者の除去食提供依頼書に基づいて個別に対応しています。アレルギー疾患についての知識や情報は、給食会議や職員会議を通じて全職員に周知されています。また、除去食を提供する際は、専用食器を使用し、名札のついたトレイで配膳して、誤食の無いよう栄養士、担任、園長でトリプルチェックを実施しています。 ・調査時点では、中国、韓国、ネパール、ナイジェリアなどの子どもたちが在籍しており、文化や生活習慣の違いを尊重して対応していますが、日本と違う文化や生活習慣をほかの子どもたちが理解できるように説明はしていません。それぞれの国の文化を紹介する等、一緒に楽しむ機会を設けることを期待します。 ・障害児保育の状況や状態、対応について昼礼などで話し合っていますが、全職員が学習するまでには至っていません。 ・虐待に関するマニュアルが無く、全職員に虐待の定義について周知するまでには至っていません。今後は虐待の定義や早期発見のポイントなどを全職員に周知されることが期待されます。	

評価分類Ⅰ-6 苦情解決体制	評価結果
	
・「苦情相談窓口」についての文書が保護者に配布され、入園説明会等で説明し、玄関にも掲示しています。要望・苦情受付担当者として園長、苦情解決責任者として運営会社の保育事業部長が決まっています。地区民生委員の2名が第三者委員として決まっていて、直接苦情を申し立てることができます。他機関の苦情窓口として、かながわ福祉サービス運営適正化委員会を紹介しています。 ・玄関を入った廊下に意見箱が設置されています。懇談会や保護者の代表と保育園等が話し合う運営委員会で、要望や苦情を聞いています。行事後にはアンケートをとり、次回につなげるようにしています。 ・過去の相談・要望・苦情受付の記録は昨年度分までとなっており、今年度は作成されていません。昨年度は「行事を増やしてほしい」との保護者の要望に沿うように、今年度は対応しました。苦情・要望を次に活かすためにもデータを継続して蓄積し、整理していくことが期待されます。	

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕	評価結果
・おもちゃ棚には既成のおもちゃや手作りのバック、エプロン等、幼児クラスでは色鉛筆、紙、カードゲーム、子どもたちの手作りのままごとの食品等があり、自由に取り出して遊べるようになっています。 ・各クラスには年齢や発達にあったおもちゃや絵本が用意されています。教材庫やフリースペースにあるおもちゃなどもクラスに持って来て遊ぶことができ、また、季節や発達に合わせ、入れ替えています。 ・子どもたちは数人でごっこ遊びをしたり、カードゲームをしたり、一人で絵本を読んだり、ブロックをしています。公園では大勢で鬼ごっこをしたり、わらべ歌で遊んだり、2、3人で落ち葉を集めたり、自由に遊んでいます。 ・子どもたちが一人一人じっくり遊べるように、保育士は見守り、時には声をかけ、遊びを援助しています。 ・トマト・枝豆・茄子などを栽培し、収穫した野菜を「クッキング」の時間に子どもたちが調理をしたり、厨房に届け、給食に出してもらっています。また保育室ではカブトムシの幼虫を飼ったり、散歩先で見つけた虫を図鑑で調べたり、興味関心を広げています。 ・天気の良い日には公園や散歩に出かけ、季節の変化を肌で感じられるように、紅葉した落ち葉を拾ったり自然に触れる機会を多く作っています。 ・紙や色鉛筆、はさみ、のりなど自由に使えるように配慮しています。保育室には子どもたちの作品が飾っており、製作用意欲を引き出しています。 ・子ども同士のけんか等については、年齢に応じてお互いの気持ちを受け止め、納得して解決できるように見守っています。乳児クラスでは保育士が間に入って気持ちを代弁しています。 ・天気が良い日は積極的に散歩に出かけています。散歩先は発達段階に応じて考慮しています。また、園庭も乳児には十分な広さがあり、園内でも屋外活動が楽しめます。夏には園庭に遮光ネットを張り、紫外線対策をしています。 ・子どもたちの既往歴や健康状態に合わせ、外遊びをせずに室内でフリーの保育士と遊ぶ等、工夫しています。	
評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔生活〕	評価結果
・子どもたちは自分で食べきれない量を言って減らしてもらうことができます。適量をよそい、食べ切る喜びを感じられるように配慮しています。無理強いして食べさせないことを保育士間で共有しています。 ・子どもたちの食べようとする意欲を大切に、嫌いな物にも、「一口食べてみようね」等、適切な言葉かけや援助をしています。 ・3・4・5歳児はお当番がマスク・バンダナ・エプロンをして配膳を手伝っています。また、栽培した野菜を調理したり、1歳児からキャベツをちぎったり、食材に触れる等、月齢に合わせた食育をしています。 ・季節感のある献立を心がけ、郷土料理や外国の料理を取り入れる等、工夫しています。 ・栄養士や調理担当者は時間がある限り保育室を訪れ、子どもたちの食べる様子を観察したり、子どもの声を聞いています。栄養士は子どもたちと一緒に食事を取ることもあります。 ・毎日の給食・おやつサンプルは廊下のよく見える場所に展示されています。子どもたちに人気のレシピカードを自由に取れるようにしてあります。保護者に食事に対する関心がもてるようにしています。 ・0・1歳児は布団で、2歳児からはコット（簡易ベッド）で午睡しています。眠れない子どもに午睡を強要することはありません。静かに過ごせるように配慮しています。 ・トイレトレーニングは個別に対応しています。園の方から成功回数や排尿の間隔を知らせ、家庭での様子も聞いて双方で進めています。	

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】	評価結果 
・「健康管理マニュアル」、「感染症対応マニュアル」があります。 ・子どもたちは毎朝検温してから登園し、クラスに置いてある連絡ボードに保護者が記載しています。また保育士は視診で確認しています。 ・担任は園での健康状況を保護者に伝え、一緒に対応を考えています。系列園の看護師に、いつでも相談できる仕組みがあり、助言をもらっています。 ・年に２回の健康診断、１回の歯科健診の結果は健康台帳に記載されています。 ・感染症が発症した場合は、症状や受診の目安も合わせて玄関と階段踊り場部分にも掲示し、ホームページにも掲載して、保護者に情報提供しています。	
評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】	評価結果 
・「給食・衛生管理マニュアル」があります。 ・保育室・調理室・トイレ等、場所ごとに清掃マニュアルがあり、それに従って清掃されています。 ・今後は、マニュアルが最新の知識や情報に基づくものとなるよう定期的に見直しを行い、衛生管理について、職員が正しい知識を持ち、統一した対応を行うための取組が望まれます。	
評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】	評価結果 
・「危機管理マニュアル」があります。 ・おもちゃ棚やロッカーなどには転倒防止の安全対策が取られています。各保育室には防災頭巾や保育士のヘルメットが用意され、避難リュックの中には救急用品・水などが入っていて、すぐに持ち出せるようになっています。 ・マニュアルは、危険予知、未然防止のための措置や、水遊び、散歩時、災害時、事故、不審者などに対応しており、職員に周知されています。 ・子どものケガについては、軽傷であっても必ず、記録し、降園時に保護者へ状況を報告しています。また、その後の様子を確認しています。 ・不審者の侵入防止策として、外の門、玄関と出入り口は施錠され、ＩＣカードで管理されています。	
評価分類Ⅱ－３ 人権の尊重	評価結果 
・子どもたちにはわかりやすい言葉を選び、穏やかに話し、せかしたり、急がせることはありません。 ・子どもたちが自分の言葉で気持ちを言えるように、保育士は寄り添い、常に受けとめる配慮をしています。 ・個人情報の取り扱いについては「入園のしおり」で保護者に説明し、ブログなどの写真掲載については、写真使用許可承諾書を提出してもらっています。また、個人情報に関する記録は施錠できる場所に保管され、管理されています。 ・無意識に性差に関わる先入観や固定観念で保育をしていないか、「女の子」「男の子」と分けての言葉かけなどを職員間でもお互いの気づきを伝え合い、反省する仕組みをつくることが望まれます。 ・友達や保育士の視線を気にせず過ごせる場所はありません。今後は友達の視線を気にせず過ごせる場所をパーテーションや棚の配置などで工夫し、設置することが望まれます。	

評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携	評価結果
	
・保護者には入園説明会や入園式、懇談会で保育理念、基本方針を説明しています。また、園だより、クラスだよりの中で、保育方針に基づいて保育していることが理解できるようにしており、保育方針は玄関にも掲示され、いつでも保護者が目にできるようにしています。 ・年に２回保育参加の後に個人面談を設けていますが、希望すればいつでも個別面談を受けることができ、事務室やホールなど、ほかの人の目を気にせず、話すことができます。 ・相談内容は記録し、継続的にフォローができるような体制があります。内容によっては職員会議で報告し、全職員が情報を共有しています。 ・各クラスにホワイトボードがあり、その日の保育の様子を掲示しています。また、時には写真で活動の様子を示すこともあります。 ・ブログで保育の様子や写真を毎日のようにアップして、日常の保育の様子がわかるようにしています。また、普段の１日の様子をビデオに収め、懇談会で見てもらっています。 ・３歳児クラスまでは保育参観ですが、４・５歳児クラスは保育参加の形を取っています。参加しやすいように半月ほど期間を設けてあり、希望の日を選べるようになっていました。また、この期間でなくても希望があれば、受け入れる体制があります。 ・年２回運営委員会に各クラスの代表の保護者が出席し、保護者と園との意見交換をし、コミュニケーションを図っています。また、その記録は公開されています。 ・保護者宛のアンケートなどで保育方針が理解されているか、把握するには至っていません。今後、工夫が望まれます。 ・保育参観、懇談会に出席できなかった保護者にはレジュメを渡していますが、懇談会の記録が無いと、詳しい内容を欠席した保護者へ知らせることができません。今後は懇談会の記録を残し保護者へ周知する取組が望まれます。	

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	評価結果
・子育て支援ニーズを把握できるような地域住民との積極的な交流はなく、育児相談も行っていない。これからの課題となっている。 ・月に３回ほど一時保育を受け入れたことがありますが、交流保育や園庭開放はまだ行っていない。また、地域住民に向けての子育てや保育に関する講習会や研修会はまだ開催されていません。今後、保育園の専門性を活かした講演会や研修会が開催されることが望まれます。 ・関係機関や他施設との検討会・研究会に参加していません。今後は関係を深めていくことが望まれます。	
評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能	評価結果
・必要な関係機関、医療機関、療育センターなどの相談機関とは園長が窓口となり、連携が取れており、職員は情報を共有しています。 ・現在、地域住民への情報提供・育児相談は実施されていません。定期的に育児相談を実施し、お知らせを掲示したり、回覧する等、さらなる取組が期待されます。	

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ	評価結果 
・近隣の住民と散歩に行くときに挨拶を交わしたり、園で栽培した野菜を持って訪ねたりしています。また、騒音防止のために窓を二重サッシにする等、友好的な関係を築くための配慮をしています。 ・子どもたちが地域の商店に野菜の苗を買いに行ったり、お泊り保育の食事の材料を買いに行く等、地域の人たちと日常的に交流をしています。 ・近隣にあったデイサービス施設の高齢者と交流をしていました。また、矢向地域ケアプラザに行き、本や紙芝居を借りています。 ・子どもや保護者が地域のお祭りやイベント、育児支援行事に参加できるよう、情報を提供しています。 ・運動会などの行事に近隣の住民を招待していますが、まだ地域住民の参加はありません。また、自治会・町内会には加入していないため、協力して行事を行う等、地域の団体や機関と定期的に交流するまでには至っていません。	
評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供	評価結果 
・保育園のサービス内容などの情報をホームページやパンフレットで、地域や関係機関に情報提供しています。また、横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」や鶴見区の保育園紹介にも情報提供しています。 ・保育園の基本方針や利用条件・サービス内容などについて常時説明対応をしています。また園のパンフレットに見学に関する問い合わせ先が明記され、問い合わせ時には見学できることを案内し、見学者の都合に合わせて対応しています。	
評価分類Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ	評価結果 
・ボランティア受け入れマニュアルがなく、受け入れ時の記録がありません。今後はマニュアルおよび記録を整備し、広くボランティアを受け入れるよう、さらなる取組が期待されます。 ・実習生の受け入れのマニュアルがあり、受け入れにあたり、職員や利用者に基本的な考え方、方針が理解されるよう説明をしていますが、受け入れの実績はありません。今後は積極的に受け入れていくよう、さらなる取組が期待されます。	

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類Ⅴ－１ 職員の人材育成	評価結果
	
・保育所運営に十分な人材構成になるように、経験年数などを考慮して必要な人材の補充を行っています。保育理念に沿って、より良い保育サービスの提供ができるよう、人材育成計画が策定されています。 ・職員は半年ごとに資質向上に向けた目標を定め、自己評価を行っており、園長は半年ごとに面談して確認しています。また、非常勤職員も評価票に基づく目標設定と自己評価を行ない、園長と面談しています。 ・園内研修は定期的開催し、非常勤職員も参加できます。時間により参加できないときは研修報告書で確認しています。 ・外部研修に積極的に参加しています。研修を受けた職員は報告書を作成し、職員会議等でも報告して、職員で共有するようにしています。研修を受けた職員が講師を担当して園内研修を実施しています。 ・非常勤職員にも業務マニュアルが記載された「太陽の子職員研修資料」を配布し、常勤職員と同様に内部研修に参加しています。 ・園長が研修担当者となっていますが、今年度（平成27年度）の研修計画は作成されていません。平成26年度の研修計画を今年度も使用しており、見直し評価が行われていません。今後は、研修の成果を検証して見直す仕組みを確立されることが期待されます。	
評価分類Ⅴ－２ 職員の技術の向上	評価結果
	
・職員は月間指導計画・年間指導計画の見直し・自己評価、運営会社の評価表に基づく自己評価など、一人一人の職員が自己評価を行なう仕組みがあり、自己評価をして文章化できるように、運営会社の書式が定型化されています。 ・保育の自己評価は、計画で意図とした保育のねらいが達成されたか記入し、関連付けて行われ、子どもの成長や意欲を大切に、結果だけでなく取り組む過程を重視して行っています。 ・保育士等一人一人が保育の自己評価を行ない、自己の実践を改善していく中で新たな課題を設定し、次の週案・月間指導計画・年間指導計画に反映させています。 ・保育士等の自己評価は職員会議やリーダー会議等で報告し、意見交換しています。 ・保育士等の自己評価は行われていますが、それを基にした園としての全体の自己評価を行うまでには至っていません。今後は園としての自己評価を行い、公表することが望まれます。	
評価分類Ⅴ－３ 職員のモチベーションの維持	評価結果
	
・職員のモチベーションを高めるような研修や話し合いは行われていますが、経験・能力や習熟度に応じた役割を期待水準として明文化するまでは至っていません。 ・日常の保育や保護者の対応など、職員に権限を委譲して自信と責任を持たせるようにしています。結果責任は園長にあるとして、報告・相談するよう伝えています。 ・職員会議では職員が業務改善を提案し検討しています。また、運営会社が職員のアンケート調査を行っており、改善提案や意見を述べる機会があります。また、園長は年2回、一人一人の職員と面接をして満足度や要望を聞いています。	

評価分類Ⅵ－１ 経営における社会的責任	評価結果  
・運営会社の就業規則の中に服務規律として職員が守るべき事項を明記しています。入社時の職員研修においても説明し、周知しています。 ・トイレトーパーやペーパータオルの使用を必要量にする等、減量化に努めています。またペットボトルの上履き入れ、乳飲料瓶の歯ブラシ立て、段ボールやペーパーの芯、牛乳パックの製作物等、リサイクルのための取組を行っています。使用しない部屋の照明やエアコンをこまめに消す等、省エネルギーの取組や芝生やプランターでの夏野菜の栽培など緑化への取組も実施しています。また、施設として、よこはまＥＣＯ保育所（市）認証書を受けました。 ・保護者代表が参加する運営委員会が年２回開催されていますが、経過報告・今後の活動計画の説明が主であり、経営や運営状況等の情報を公表するまでには至っていません。 ・環境配慮の取組は実施されていますが、園としての環境配慮への考え方や方針は明文化されていません。	
評価分類Ⅵ－２ 施設長のリーダーシップ・主任の役割等	評価結果   
・理念や基本方針、保育目標は職員に配布している研修資料や園のしおり、事業計画書などに、掲載されています。また、玄関を入るとすぐの見やすい場所に掲示しています。職員は入職すると「新人研修」で理念などについて研修を受けます。また、日常的に職員会議などで園長や主任が確認しています。 ・園長は年２回開催される運営委員会で各クラスの保護者代表と意見交換をしています。重要な意思決定のほか、日常の保育についても保護者の意見を聞くようにしています。園舎の増築、定員の増員の重要な意思決定については、説明会を開き、保護者と意見交換をして経過を納得のいくよう説明しています。 ・運営会社で主任クラスを計画的に育成する主任研修を実施しています。 ・主任は個々の職員の業務状況を把握し、良好な状態で仕事に取り組めるよう配慮してシフトを組んでいます。また、職員間でコミュニケーションが取れるよう声かけしています。職員ヒアリングでも「相談しやすい」「頼りにさせて貰う」などの声がありました。	
評価分類Ⅵ－３ 効率的な運営	評価結果 
・運営面での重要な改善課題を園としては、「保護者の要望把握、保護者とのコミュニケーション」と捉え、職員で話し合い、園全体の取組としています。 ・事業運営に影響のある情報は運営会社本部が収集・分析していることは知っていますが、内容の詳細については園に情報が届いていません。また、事業運営に関する重要な情報は、本社の会議で話し合っていると思われるが、園には情報は届いていません。 ・運営会社では中長期的な事業の計画を作成していると思われるが、園では把握されていません。また、運営会社では、次代の組織運営に備え、新たな経営手法を取り入れるための会議や勉強会は検討していると思われるが、園には情報が届いていません。	



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

■実施期間：平成 27 年 9 月 4 日～9 月 18 日

■実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。

■回収率：配付 80 件、回収 44 件、回収率 55%

*文中の満足度とは「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合を足したものです。

【結果の特徴】

問 1 「保育目標、保育方針」について 70.5%の保護者が「良く知っている」「まあ知っている」と答えていて、答えた人の 78.1%の保護者が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。逆に「まったく知らない」「あまり知らない」と答えた保護者は 22.8%でした。

問 4 日常の保育内容「遊び」についての項目では、「戸外遊び」「教材」「友達や保育者との関わり」が、88.6%と高い満足度でした。次いで「クラスの活動や遊び」の満足度は 86.4%、「園外活動」「健康作り」はそれぞれ 81.8%の満足度でした。「生活」についての項目では、「お子さんが給食を楽しんでいるか」93.1%「給食の献立内容」「基本的生活習慣・自立に向けての取り組み」はそれぞれ 86.6%と多くの保護者が満足しています。「お子さんの体調への気配り」の満足度は 84.1%、「昼寝や休憩の状況」は 81.8%の満足度となっています。保護者からは、保育園での遊びを楽しんでいる、季節ごとに友達と色々な遊びをしてもらえ助かっている、初めての育児で離乳食や生活面を相談できるとの声がありました。

問 5 「保育園の快適さや安全対策」の中では「お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか」93.2%の高い満足度で評価されています。「不審者対策」88.7%「感染症の発生状況、情報提供」86.4%「施設設備」84.1%の満足度となっています。一方、問 6 「保護懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」は、「どちらかといえば不満」「不満」が 27.3%、同様に「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換」は「どちらかといえば不満」「不満」を 27.3%の保護者が示しています。保護者からは、懇談会の議事録・資料に不満、保護者から意見を言う場面が少ないとの声がありました。

問 7 職員の対応についての項目では、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の満足度は 95.4%と高い評価を得ています。続いて「お子さんが大切にされている」88.6%、「話しやすい雰囲気、態度」86.3%の満足度となっていますが、「意見や要望への対応」の満足度は 75.0%で「どちらかといえば不満」「不満」を 22.8%の保護者が示しています。問 3 の「年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか」も「どちらかといえば不満」「不満」が 27.3%となっています。先生によって差がある、情報共有や状況の引継ぎをしてほしい、質問回答が遅く不信感が増えるなどの声がありました。

現場の保育士は子どもたちと真正面から向き合い本当に良くしてもらっていると評価する声も多数ある中、園と保護者との距離が縮められる環境づくりが必須という意見もありました。

「保育園の総合的評価」は満足度 86.3%「どちらかといえば不満」11.4%「不満」は 2.3%でした。

太陽の子尻手保育園 利用者家族アンケート集計結果

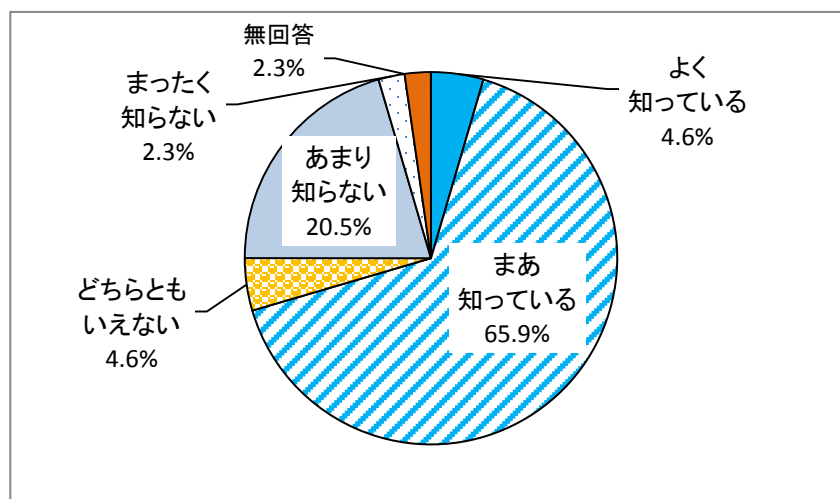
実 施 期 間	平成27年9月4日～9月18日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	80 件
有 効 回 答 数	44 件
回 収 率	55 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	5	9	10	5	8	7	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

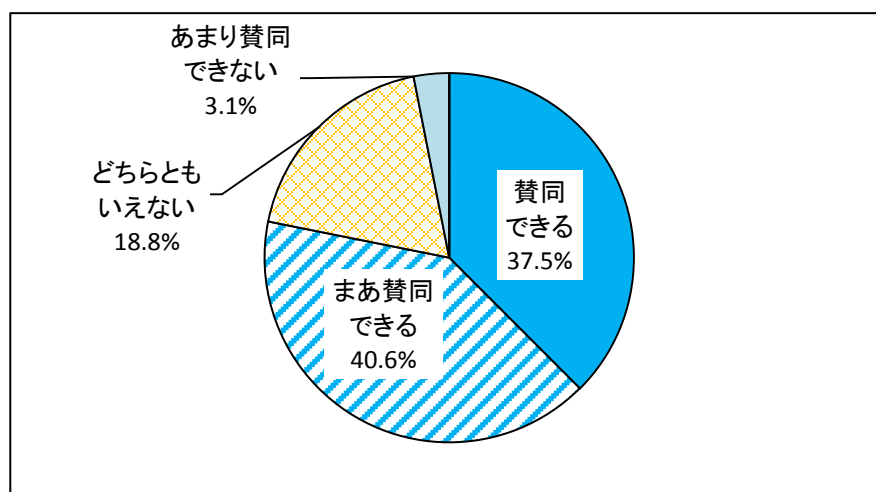
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	4.6	65.9	4.6	20.5	2.3	2.3	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
	37.5	40.6	18.8	3.1	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	45.5	18.1	0.0	0.0	29.6	6.8	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	38.6	29.5	9.1	0.0	15.9	6.8	
園の目標や方針についての説明には	31.8	38.6	15.9	4.5	4.5	4.5	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	47.7	38.6	4.5	4.5	2.3	2.3	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	43.2	34.1	11.4	4.5	4.5	2.3	
費用やきまりに関する説明については	31.8	36.4	18.2	6.8	4.5	2.3	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	34.1	38.6	15.9	4.5	4.5	2.3	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	22.7	45.5	18.2	9.1	2.3	2.3	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	45.5	40.9	9.1	2.3	0.0	2.3	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	50.0	38.6	6.8	2.3	0.0	2.3	
園のおもちゃや教材については	36.3	52.3	6.8	2.3	0.0	2.3	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	29.5	52.3	11.4	4.5	0.0	2.3	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	40.9	47.7	6.8	2.3	0.0	2.3	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	40.9	40.9	9.1	2.3	4.5	2.3	

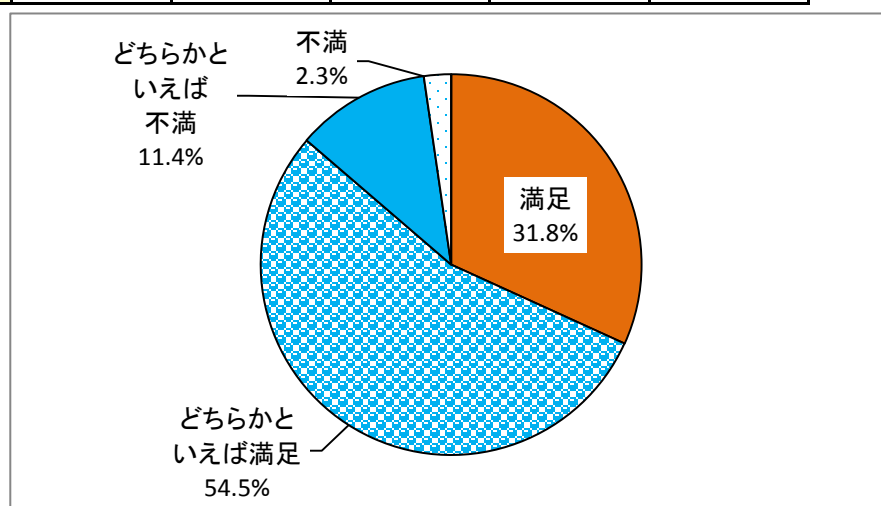
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	68.2	18.2	9.1	2.3	0.0	2.3	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	63.6	29.5	0.0	2.3	2.3	2.3	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	43.2	43.2	9.1	0.0	2.3	2.3	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	47.7	34.1	9.1	2.3	2.3	4.5	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	34.1	25.0	15.9	2.3	15.9	6.8	
お子さんの体調への気配りについては	43.2	40.9	6.8	4.5	0.0	4.5	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	34.1	43.2	9.1	6.8	2.3	4.5	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	36.4	47.7	11.4	2.3	0.0	2.3	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	43.2	50.0	4.5	0.0	0.0	2.3	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	36.4	52.3	6.8	0.0	2.3	2.3	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	40.9	45.5	9.1	0.0	2.3	2.3	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	29.5	36.4	15.9	11.4	4.5	2.3	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	34.1	47.7	13.6	0.0	2.3	2.3	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	29.5	50.0	13.6	2.3	2.3	2.3	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	40.9	29.5	22.7	4.5	2.3	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	38.6	43.2	15.9	0.0	2.3	0.0	
保護者からの相談事への対応には	36.4	52.3	6.8	2.3	2.3	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	40.9	50.0	0.0	0.0	6.8	2.3	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	47.7	40.9	6.8	4.5	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	56.8	38.6	2.3	2.3	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	40.9	31.8	2.2	0.0	18.1	6.8	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	47.7	38.6	9.1	2.3	0.0	2.3	
意見や要望への対応については	43.2	31.8	20.5	2.3	0.0	2.3	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	31.8	54.5	11.4	2.3	0.0	





利用者本人調査

【実施概要】

- 実施日時：平成 27 年 11 月 12 日、11 月 13 日
- 実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

立ち乗りのバギーとベビーカーに乗る子ども、手つなぎで歩いて行く子どもの9人と保育士4人は「町のはらっぱ公園」にお散歩に行きます。歩く子どもは途中で代わります。道端の花を見たり、犬をみつけて「わんわん！」と言ったり、散歩の人と挨拶を交わしたりしながら、ゆっくり歩いて行きます。保育士は子どもたちの指差す方を見て、「よく見つけたね～、カラスさんだね」と言ったり、「わんわんいたね～」と優しく答えています。公園にはほかの保育園の子どもたちも来ていて、賑わっていました。子どもたちの少ない場所を選んで、まだ歩けない子どもたちのためにシートを敷き、お座りできるようにします。そばでシャボン玉を吹くと、目で追い、手を差し伸べたり、ハイハイで追いかけてようとします。ヨチヨチ歩いて追いかける子どももいます。保育士についてきてもらって遠くまで歩いて行く子どももいます。保育士がボールを出しました。ボールを転がすと追いかけたり、蹴ろうと頑張る姿もあります。落ち葉を拾ったり、電車を見たり、たっぷり遊びました。園に着いたら、洗面台で手を洗います。おむつを交換してもらい、給食です。トレイには一人一人名前のカードが置いてあります。自分で食べたい気持ちを尊重してもらいスプーンを使いながら、一生懸命食べます。「もぐもぐ」「上手ね～」と声をかけてもらい、手伝ってもらいながら完食します。お腹の調子の悪い子どもには重湯が出ていました。

●1歳児クラス

登園しておむつが濡れていない子どもはトイレに座ることが習慣になっています。紙パンツ・ズボンの履き替えは自分たちでできるところまで保育士は見守っています。ズボンを一人で履けた子どもは「上手～！」と褒められて得意そうな顔を見せています。トイレを済ませたら遊びのスペースに行きます。絵本は表紙が見えるように置かれています。おもちゃは低い棚に箱などを使って、種類別に置かれています。どちらも手に取れる位置にあります。抱っこひもでお人形を抱っこしている子ども、布製のバッグにままごとの野菜やケーキを出し入れしている子ども、ブロックで遊んでいる子ども、保育士に絵本を読んでもらっている子ども、みんな自由に楽しそうに遊んでいます。おやつの時間になりました。「一緒に片付けよう」と言っても絵本を離さず泣き出した子どもがいました。保育士に抱っこされ「今日のおやつは何か？」と入口付近まで行き「絵本はここに置いて後で読もうね」と声をかけられたら納得して離しました。朝の歌の後、名前を一人ずつ呼びます。「は～い」と声を出したり、手を上げます。「上手！」と褒めてもらい嬉しそうです。「いただきます」の歌を歌っていただきます。アレルギーの子どものおやつは名前シールのあるトレイに載っています。「美味しい～」と一人が言うと同じように「美味しい～」とあちこちから声が上がります。みんな楽しそうに食べます。おやつ後は手をつないで歩いて公園にお散歩に行きました。

●2歳児クラス

押されて泣いている子がいます。「〇〇ちゃん、押さない約束だよ、なんて言うんだっけ？」ブロックを取ろうとして押し合っている子どもがいます。「黙って取ってもいいんだっけ？」「〇〇君は取られたらどう？」一人占めしている子がいます。「お友だちが貸してくれるのを待っているよ」それでも貸してくれないと待っている子を違う遊びに誘います。保育士は遊んでいる子どもたちを見守りながら、間に入って気持ちを代弁したり、相手の気持ちに気づかせるような言葉かけをして、それぞれが遊びを楽しめるようにしています。

お散歩に行きます。保育士1人は2人ずつ手をつないだ4人の子どもたちと「おもちゃのチャチャチャ」と歌いながら軽快に歩きます。靴が脱げたり、砂が入ったり、鼻水が出たり、ほかのグループを待ったり、となかなか進みませんが、みんな楽しそうに歩きます。尻手公園に着きました。「トントん、ちゅうりっぷさん」という保育士の呼びかけに「トントん、なーに」とやりとりしながら、周囲の安全確認をしている間座って待ちます。遊ぶ場所の確認をしたら、自由に遊びます。ブランコは保育士が背中を押して数え、ほかの子どもたちは並んで順番を待ちます。スタートの線を引いて「よ〜い、どん!」の合図で一斉にかけっこしたり、ジャングルジムの間をくぐり抜けて追いかかけっこしたり、保育士を追いかけたり、落ち葉を集めたり、そばを走る貨物列車に手を振ったり、思い思いに身体を動かし、たっぷり遊びました。帰りは「今日の給食は何か？」など話しながら、園に戻りました。

●3歳児クラス

4歳児クラスと一緒に散歩に行くことにしました。体調の悪い子どもと受診後遅れて登園する子ども2人は保育士と室内で過ごします。玄関の外で4歳児と手をつなぎます。車の往来が少ない住宅地を通って南町公園に着きました。ゲートボールをしているお年寄りのグループもいます。「見える所で遊ぶ、ゲートボールのコートに入らない、棒で遊ばない」と注意を聞いたあとは、ジャンパーを脱ぎ、「むっくりくまさん」を8〜10人でしたり、かけっこをしたり、遊具で遊んだり、落ち葉を集めて雨のように降らせたり、4歳クラスの鬼ごっこに入れてもらう子どももいたり、それぞれ自由に遊びます。行きに手をつないだ子どもを探して並び、園に戻ります。

帰ったら給食です。帽子、ジャンパーをさっと片付けて、トイレ、手洗い、とスムーズに準備します。保育士がおかずをよそいます。それを2人のお当番が配ります。配られた子どもは「ありがとう」と言い、「どういたしまして」と返します。おかずが苦手で減らしたい子どもは保育士に言います。そして食べられる量にします。極端に減らすことはありません。お箸の持ち方を正確にするために5月から全員フォークに戻し、フォークが正しく使えるようになった子どもから順次お箸にしています。家庭でも協力してもらって正しい持ち方が身につくようにしています。静かによく食べます。残す子どももいません。歯磨きは前に保育士が立ち、磨き方を見せます。子どもたちはそれに合わせて、自分の席で順番に磨き、最後に仕上げ磨きをしてもらい、うがいします。

●4歳児クラス

トランプをするテーブル、保育士手作りのカードで神経衰弱をするテーブル、カルタをするテーブル、ピックアップシートを敷いておうちにしてままごとをするグループ、それぞれが好きな遊びを楽しんでいます。部屋の真ん中で言い争う2人がいます。「一方的に言うのは違うよ。それぞれの気持ちを静かに話してごらん」と保育士が声をかけると、顔がくっつくぐらいに近寄り、長い時間、思いを言い合います。見守っていた保育士が離れた場所に2人を呼び、それぞれの気持ちを整理して伝えと、2人とも納得して、ニコニコと戻ってきました。片付けが終わり、それぞれが席につきますが、1人だけ、なかなかパズルを片付けません。保育士は「先にお茶を飲んでもいい？」と聞きますが「いや！」と答えたため、「少し待ってね」とほかの子どもたちに言い、手遊びをして片付けるのを待ち、みんなでそろってお茶を飲みました。

3歳児と一緒に南町公園に行きます。手をつなぎ、車道側を自分たちが歩くように気を配りながら進みます。公園ではほとんどの子どもが集まり、自発的に島鬼を始めました。氷鬼と混同している子どもがいるため、保育士はルールを説明したり、持って来ていたペットボトルの水を使って島をわかりやすく描いたり、笛を使って、タッチされたことがわかるようにしたり、遊びをリードしています。たっぷり遊んでまた仲良く帰りました。

金曜日は、午睡後はタオルケットを各自の汚れ物袋に入れます。また、おやつ後は手拭きのタオル、歯磨き、コップ、パジャマ、お当番のエプロン等もしまいます。上手にしまえない子どもには保育士はすぐに手出しするのではなく、しまい方をわかりやすく説明しています。

●5歳児クラス

朝の会はおはようの歌を歌い、挨拶をします。自分たちで考えた歌詞で「そうだったらいいのにね」の歌や「真っ赤な秋」を元気に歌います。今日は久しぶりに南河原公園に行きます。公園に着いたら「何か違いますね」の保育士の声かけに「赤！黄色！茶色！」など葉の様子が変わっていることを口々に答えます。遊ぶ範囲や枝で遊ばないことを確認したあとで、遊びはじめます。「チームを組もう！」と2、3人ずつで落ち葉をすくって掛け合う子どもたち、「探検しよう！」としげみに入り、「人の顔みたい」「セミの背中みたい」「せんべいみたい」「ハート型だぁ」等、いろいろな形の葉を見つける子どもたち、落ち葉をたくさん集め、「このでっかい石がサツマイモね」「温まりましょう」と、たき火に見立てる子どもたち。走り回って暑くなった子どもたちはジャンパーを脱ぎます。喉が渴いた子どもは保育士からお茶をもらいます。それぞれで遊びを工夫し、同じメンバーだけでなく、入り乱れて仲良く遊びます。それを保育士は見守っています。

園に帰ったら給食です。手洗いはどの子どももしっかり洗っています。お当番はバンダナ・マスク・エプロンをしてテーブルを拭き、ランチョンマットを配ります。保育士がよそった主食・副菜・お茶のコップを配ります。その間ほかの子どもたちは絵本の読み聞かせを聞いて待ちます。配膳のあと、お当番がエプロンなどをしまうのを待つ間「お腹すいた～」の声があがりましたが、保育士が「頑張っているから待っててね」の声にみんな静かに待ちます。にぎやかに楽しい雰囲気です。残す子どももなく、同じようなスピードで食べています。みんなで一緒にごちそうさまをしてから歯磨きをします。



事業者コメント

第三者評価を受けて

評価を受ける前は、園長、主任を始め職員も不安でしたが、担当の方の説明を元に個人が評価しました。難しい表現や、言葉の違いで評価が違う事で何度も職員が話し合いその内容を乳児、幼児でまとめる為、話し合いを職員が持ち、最終的に全体をまとめることが出来、園の評価ができました。

保護者からのアンケートは、厳しいご意見もありましたが職員一同真摯に受け止め今後の保育園運営や保育に活かしていこうと話し合いました。

開園３年目で、まだまだ課題はたくさんありますが、保育に関しては高評価を頂きました。

高評価をキープし更なる保育の発展をしていきたいと思えます。

評価の中では改善課題もあるので、今後は地域に開かれた保育園になれるよう職員と共に日々考え進んでいきたいと思えます。

第三者評価調査員の皆様には、改善点だけでなく、良いところも見つけて褒めて頂き、ありがとうございました。

太陽の子尻手保育園
園長 横田里菜

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-02

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

<http://www.yresearch-center.jp>

